

編 集 後 記

今月号には、保育現場での動物の話題が二つあった。「飼育」には考えるべき点が多くあると思うが、生き物とのかかわりは大切にしたい。

六月のある夕方、小学生になった娘が、猫に襲われて怪我をした鳩を連れてきた。猫と戦って奪ってきたという。その猫も「私の知り合いの猫」だというからそう恨めない。段ボール箱に入れ、ぼろきれやパンを入れて彼女は看病していた。しかしこのままでは助からないという父親の判断で、翌日、野鳥観察舎内の野鳥病院に連れていくことにした。

翌日、学校でも彼女の頭の中は鳩のことで一杯だったようだ。帰宅す

る私を待って、どしゃぶりの雨の中、荷台に段ボール箱を載せ、野鳥病院に向けて彼女は二十分程自転車をこぎ続けた。別れ際に泣いてしまったが、「いつでも会いにおいで」という言葉を胸に帰ってきた。

翌日も、彼女は帰宅するや否や、祖父と野鳥病院に向かったという。その道中に鳩は死んでしまった。落胆して戻ってきたわが家の留守番電話には、彼女を気遣って、野鳥病院の方からの伝言が入っていた。その後、鳩の事は何も言わない。何も言わずに何を思っているのだろうか。

一羽の鳩を巡って過ぎた数日間。大人にとっては非日常の様な日々だったが、子どもの生活からすれば、これも日常なのだと思う。与えてあげることのできない日常が生き物との出会いの中にはある。(田)

幼 児 の 教 育

第九十四巻 第十号

(一九九五年十月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成七年十月一日

編集兼発行人 田代 和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一〇一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五二二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三―五三九五―一六六〇四

振替 〇〇―一九〇―二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレー

ベル館にお願いします。